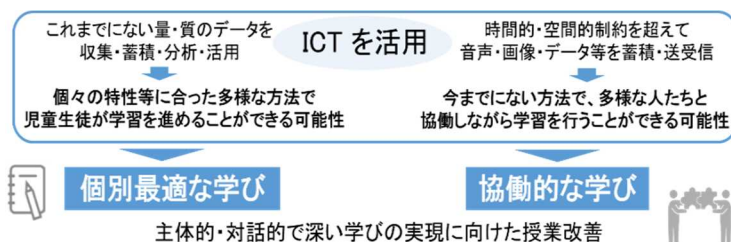


〔視点3〕「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を支える手立て

学校における授業づくりに当たっては、ICTをツールとして活用しながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことが大切です。



1 一人一人の特性・学習進度等に応じた重点的な指導や指導方法・教材等の工夫を行う。

多様な方法で目標達成を目指す指導の個別化

学びの過程において、児童の学びを深めたり主体性を引き出したりする場面を工夫し、確実に基礎的・基本的な知識及び技能を習得することができるよう授業改善を図ることが重要です。

そのため、全ての児童が目標を達成することができるよう、一人一人に応じた効果的な方法で学習を進めるなど、「指導の個別化」の側面から「個別最適な学び」の充実を図ることが大切です。

児童が自らの学習進度に応じて繰り返し手順等を確認し、理解を深めることができるよう、実物を使って説明した動画を準備するなど、「指導の個別化」の側面からの工夫の例



【POINT】

- ・学習者用デジタル教科書、学習動画など、ICTを利用した教材や、ワークシートなどの紙の教材も組み合わせることで多様な教材を活用することが大切です。

2 一人一人に応じた学習活動や課題に取り組む機会の提供を行う。

自らに最適な学びとする学習の個性化

学びの過程において、児童が自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設けるなど、児童の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習が促されるような場面を工夫することが重要です。

そのため、探究的な学習の過程等において、児童自身が最適な学習に向けて調整することができるよう、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供するなど、「学習の個性化」の側面から「個別最適な学び」の充実を図ることが大切です。

児童が探究的に学習することができるよう、アンケートやインタビューなど多様な情報収集の手段から最適な方法を選択・活用させる場面を設定するなど、「学習の個性化」の側面からの工夫の例



【POINT】

- ・情報の探索、データの処理や視覚化、レポートの作成や情報発信などの活動でICTを効果的に使うことにより、学びの質を高め、深い学びにつなげることが大切です。

3 一人一人のよい点や可能性を生かし、多様な他者と協働する場面を設定する。

最適解や納得解を求める協働的な学び

学びの過程において、児童同士の関わり合いなどを通じて、お互いの感性や考え方に触れながら学ぶことが重要です。

そのため、異なる考え方を組み合わせ、よりよい学びを生み出していくことができるよう、資質・能力の育成を目指した対話や協働等により、知識やアイデアを共有するなど、「協働的な学び」の充実を図ることが大切です。

児童が多様な他者と協働し納得解を生み出すことができるよう、整理・分析した情報をクラウドで共有化し、視点を定めて議論し合う学習場面を設定するなど、「協働的な学び」を充実させる視点からの工夫の例



【POINT】

- ・「協働的な学び」の効果を高めるために、児童が違いを認め協力し合える学級づくりを進めるなど、学級経営を充実させることが大切です。